

内容項目名	友情，信頼（内容項目B－（10））		
資料名	「最後のリレー」（出典「NHK for School ココロ部！最後のリレー」）		
学校名	銚子市立高神小学校	指導者名	名雪 真代

1 学習指導案

小学校6年1組 道徳学習指導案

平成29年11月22日（水）5校時

（1）主題名

友情，信頼

（2）ねらい

互いの価値観の違いに気付いたり，互いに信頼し合ったりすることのよさに気づき，友達とよりよい信頼関係を築こうとする心情を育てる。

（3）主題設定の理由

本主題は内容項目B－（10）「友達と互いに信頼し，学び合って友情を深め，異性についても理解しながら，人間関係を築いていくこと。」をねらいとしている。6年生は，これまで以上に友達を意識し，仲のよい友達と信頼関係を深めていこうとする時期である。また，流行などにも敏感になり，趣味や嗜好を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向も見られ，不安な学校生活につながることを考えられる。したがって，相手の立場になって気持ちを考えたり，場面を想定して「自分だったらどうするか。」を考えたりし，その経験を日々の生活に生かそうとすることは，この時期の児童にとって有意義であると考えられる。

そこで，「本当の友情とは何か。」を考え，話し合い活動を通して，互いの価値観の違いに気付いたり，互いに信頼し合ったりすることのよさに気づき，友達とのよりよい信頼関係の構築を目指し，本主題を設定した。

（4）展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (3)	1 自分にとって「本当の友達」とはどんな人か，話し合う。 ○本当の友達ってどんな人でしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・優しい人 ・助けてくれる人 ・だめなことはだめと言ってくれる人 ・一緒に遊んでくれる人 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそう思うのか，自分自身の根拠を振り返らせることで，発表に関する意識づけができるようにする。 ・共感できる内容については取り上げ，雰囲気づくりを行う。
展開 (39)	2 映像資料「最後のリレー」の登場人物を提示し，映像（前半）を視聴する。 (1' 30" ~ 5' 30")		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や親友がどんな人かを確認することにより，本時の学習では，コジマとタクヤの人間関係に着目し，コジマの行動を考えることができるようにする。



3 監督に言うべきか言わないべきか考え、ワークシートに書き、同じグループをつかって話し合う。

○コジマくんは、親友として監督に言うべきでしょうか、それとも言わないべきでしょうか。

4 自分の立場をはっきりさせて、全体で話し合う。

○それぞれの意見に納得できないところはありませんか。



「監督に言う」

- ・タクヤのけがが心配だから。
 - ・タクヤのけががでいい結果にならないから。
 - ・優勝目指してがんばってきたから。
- 「監督に言わない」
- ・最後のリレーだから、タクヤを走らせてあげたい。
 - ・タクヤの走りたい気持ち持ちは大事。

「言う」立場に対して

- ・これまで一緒に頑張ってきたから、走りたいと言っているタクヤが納得しないと思う。
- ・一緒に頑張ってきたのは、タクヤだから最後はタクヤと一緒に走るのがいいと思う。

「言わない」立場に対して

- ・これで負けてしまったら、タクヤの責任になってしまう。
- ・けがが悪化したら大変だ。

・映像を最後まで見せず、コジマがタクヤのけがを知り、監督に言うか言わないか迷う場面で止め、児童がタクヤとコジマの人間関係に着目して考えられるようにする。

- ・自力で書くことを苦手とする児童に対しては、教師が対話することにより、発言を引き出し、それをもとに書くことができるよう支援する。
- ・ネームプレートを使い、「言う」「言わない」の意見を視覚化した後、グループをつかって話し合うようにする。
- ・グループで話し合いをすることで、選んだ方法が同じでも、根拠がそれぞれ異なることに気付かせるようにする。

・異なる意見に対して、質問や意見を時間を確保することで、それぞれの考え方の違いに気付かせる。

・「言う」という場合も、チームの勝利にしか考えが深まっていない児童に「勝つことだけを考えればよいのか」を問うことでタクヤの気持ちを考えることができるようにする。

・考える視点がタクヤのことになっていない場合は、「自分がタクヤだったら」を考えるようにすることで、話し合いの視点が逸れないようにする。

	<p>5 互いの立場で、大事にしていることは何か話し合う。 ○「言う」「言わない」どちらにも共通することは、何でしょう。</p> <p>6 「本当の友情」について、自分の考えをワークシートに書き、話し合う。 【中心発問】 ◎本当の友情とは、何が大切なのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タクヤの体 ・タクヤの気持ち ・相手が気付いていないことを気付くように助けること ・相手の心や体を気づかうこと ・本当にその友達のためになるのか、一緒に考えること 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通している意見を話し合うことで「言う」「言わない」どちらともタクヤのことを考えて判断していることに気付かせる。 ・考えがまとまらない児童には、教師が板書をもとにして児童と対話し、一番印象に残ったことを中心にまとめることができるようにする。 ・数名の考えを発表させることで、どの意見も「本当の友情」には大切なことであることをおさえる。
終末 (3)	<p>7 今日の学習を振り返る。 ○話し合いを通して、気付いたことや考えたことをワークシートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支えたり、助けてくれるだけでなく、友達がよくなるために教えたり、考えたりすることが本当の友達。 ・自分も同じ場面にあったとき、周りの友達の気持ちを考えようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことや気付いたことをワークシートに書くことで、児童一人一人の視点に置き換えて考えたり、これからの日々の生活に生かしたりしようとする心情を高めるようにする。

(5) 他の教育活動との関連

- ・特別活動「なかよしタイム」(縦割り活動)で他学年との交流を通して、下級生に優しく接することのよさを実感し、互いに協力して活動しようとする態度を育てる。
- ・体育科での「バスケットボール」では、ルールやマナーを守り、友達と協力し合ってチームの特徴に応じた作戦を立て、活動に生かそうとする態度を育てる。
- ・修学旅行では、集団活動を通して、友達と協力し合い、友達を思いやる心や感動する心を育てる。また、自分たちで計画・実践することを通して、進んで判断し行動する態度を育てる。
- ・部活動では、互いに競い合い、高め合う人間関係をつくることができるようにする。また、一つの目標に向かって努力し、互いのよさを認め合いながら活動できる態度を養う。

2 事後検討会

(1) 授業記録

【導入】略

- T さあ、コジマちゃんとタクヤくんは、親友です。これまで3年間ずっと一緒に部活を頑張ってきた、親友です。コジマくんは、親友として監督に言うべきでしょうか、それとも言わないべきでしょうか。立場を決めて、ワークシートに理由を書きましょう。
- S (ワークシートに書く。)

T それでは、理由は途中になってしまってもいいです。自分の決めた立場の方にネームプレートを貼りましょう。みんなが貼り終わったら、同じ意見の人同士でグループをつくりまします。

S (理由がばらつくように、T主導でグループ編成を行う。)

T では、まず「言う」方から理由を聞いてみたいと思います。

S 足を痛めたら、タクヤが走れなくなってしまうから。

T これから、もっとけががもっとひどくなって、走れなくなるということだね。

T 少し理由が違う人いませんか。

S タクヤには悪いけど、補欠の人に頑張ってもらえばいいと思う。

T そうだよな。だって、シュンがいるもんね。

T タクヤのけがのことで書いてくれた人いませんか。

S タクヤのけがが心配だし、タクヤのこれからの人生に関わってしまうかもしれないから。

T いくらタクヤが「大丈夫」って言っても心配だもんね。

T じゃあ、今度は「言わない」という人、理由は何ですか。

S もし、コジマがけがをしてしまったら、タクヤと同じように、言わないでと言うと思うから。

T 似たような意見の人いませんか。

S 自分だったら、監督に言ってほしくないから。

T 他にどうですか。

S タクヤが大丈夫と言っているし、走りたいと言っているから

S これまで一緒に頑張ってきたのはタクヤにとって、4人で走る最後のリレーだから。

T じゃあ、お互い「でもさあ」と思うことをグループで話し合っ、納得できないところや聞いてみたいことを話し合ってみましょう。

T (各グループで話し合い後) それでは、「言う」ほうから「言わない」ほうへ意見はありませんか。

S コジマがけがをしたら、タクヤは言わないかもって言うけど、けがが心配だからタクヤは監督に言うと思う。

T 今のことに関して、「言わない」人たち意見はどうですか。

S タクヤが言わないでって言うてるから、言わないことが友情だと思う。

T 言わない方が「友情」なのかな？

T じゃあ今度は、「言わない」側の人たちに意見を聞いてみます。

S 補欠の人がいるっていうけど、シュンは2年生だし来年もあるから、最後のリレーだから、3年生4人で走ったほうがいいと思う。タクヤも4人で走りたいと言っているから、4人で走ることが友情だと思う。

T なるほど。「言う」人たちどうですか。

S シュンとタクヤは同じくらいのレベルだし、これまで優勝を目指して頑張ってきたから、やっぱり監督に言って、シュンのほうがいいと思う。

S これで負けてしまったら、タクヤのせいになってしまう。

T ということは、優勝を目指してきたチームを大事にしたいんだね。チームって誰のことを言っているの。

S コジマ、タクヤ、ケン、ヒロシ

T チームの中にタクヤも入っているんだね。さっき「言わない」人たちも4人でって言葉が出てきたけど、4人って誰のこと。

S コジマ、タクヤ、ケン、ヒロシ

T 「言う」ほう「言わない」ほう、どっちもタクヤのこと、考えてないのかな。

T じゃあ今みんなが話し合ってきたことを整理してみよう。「言う」側は何を大事にしたのかな。

S タクヤの体。チーム。

- T 「言わない」側は、何を大事にしたのかな。
- S タクヤの気持ち。
- T そうだね。つまり「言う」にしても「言わない」にしても、どちらもタクヤのことを考えているんだね。だってコジマとタクヤは親友だもんね。
- T では、今日のコジマとタクヤのことについて話し合ってきたことを踏まえて、みんなが考える「本当の友情」とは、何が大事なんだろう。ワークシートに書いてみよう。
- S （何人か発表する。）
- ・友達の気持ちや体のことをよく考えてあげること
 - ・相手の気持ちを考えられること
 - ・相手の気持ちを優先し、自分の考えも取り入れて言うこと
- T （今日の学習から学んだことや考えたことを書かせる。）

（2）授業の感想

（児童の感想）

- ・相手のことを思い、考え、自分の意見をはっきり言うことが本当の友情なんだと思った。
- ・本当の友情は、相手のこれからのことも考えて、一番大切な方を優先して考えることだと思った。
- ・本当の友情とは、友達の気持ちをよく考えて、これでいいのかと自分でも考えることだと思った。
- ・相手の立場や状況だけで考えるのではなく、相手の気持ちまで考えてから言葉や行動に移すことが大事なんだと思った。
- ・相手の気持ちを考えて、自分も判断しながら友達と友情をつくっていきたいです。

（保護者・教職員の感想）

- ・ワークシートを使い、監督に言うか言わないかの理由を明確にすることで、話し合いの際により深く考えを伝え合い、まとめあうことができるのだらうと思いました。
- ・子どもたちの実態に良く合っていた資料だと感じました。自分の考えを伝えるにとどまらず、異なる考えをもつ相手へさらに伝えていくという手段で、考えをより深められたと思います。
- ・高学年児童にとって、「友情」「親友」は十分わかっているところではありますが、子どもの本音を引き出す、発言する、本音で語れる雰囲気づくりこそ、ねらいへ迫れるものになるのではないかと思います。
- ・ココロ部！を使った授業を初めてみました。ぜひ私も使ってみたいと思いました。
- ・子どもたち一人一人がよく発言し、話し合っている姿が印象的でした。

3 本事例の活用に関する留意点

（1）映像資料提示の工夫

本資料は、学校生活においてキャプテンやリーダーとなる機会が多く、学校行事全てに「最後」という言葉のつく6年生において自我関与しやすい映像教材である。本時では、児童に考えさせた場面のみを視聴させることにより、「友情、信頼」について考え、児童がよりよい選択をすることができるようにした。

（2）話し合いの場の工夫

机の隊形を同じ意見のグループにすることで、話し合いが円滑に行えるようにした。「友達の意見を尊重する話し合い」をグループ活動の目標とし、互いの意見を聞けるように留意した。グループで意見をまとめることはせず、話し合いで出た意見を発表させ、多くの意見を共有できるようにした。